

1. 科目名(単位数)	図画工作Ⅰ(小) (2単位)	3. 科目番号	SJMP1141 SJOT1141 EDEL1304
2. 授業担当教員	森本 昭宏		5. 開講学期
4. 授業形態	実技、講義	6. 履修条件・他科目との関係 図画工作ⅠからⅡの順で履修することが望ましい。	
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	1. ポートフォリオ(振り返りカード)の作成と毎時の制作課題をファイリングして提出(フォームズなど)。 2. GIGAスクールで活用されている Forms や google ソフトを作品提出や鑑賞授業として、平行活用していく。 3. 学習の成果を課題レポートとして提出する。レポート課題については、授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 槇英子『保育をひらく造形表現』 萌文書林 小学校関連の作品や資料は随時デジタルで配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。 2. 発達段階における造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。 3. 児童の造形活動を指導する上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の30% 3. 制作や鑑賞活動の成果(ポートフォリオ等) 総合点の30% 4. 課題(作品発表、レポート等) 総合点の20%		
12. 受講生へのメッセージ	造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具(クレヨン・粘土等)の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。小学校・幼・保の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深めていく。GIGAスクール構想が加速する小学校の造形表現の内容を紹介すると共に、様々な視聴覚教材も授業に随時活用していく。 【注意事項】 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具(クレヨン・画用紙・油粘土・筆等)は、各自が準備すること。 授業内で随時伝えていく。 2. 絵の具などを使用するため、汚れて良い服装で出席すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(授業内容、目的、用意する物など)造形活動のねらいと内容(材料・用具についての正しい知識と安全指導)(講義)	事前学習	テキスト第1章①と配布資料を読む。
		事後学習	この授業で扱う材料・用具についての準備を進める。保育における造形表現の意味について、第1章の内容をポートフォリオにまとめる。
第2回	児童の造形活動で扱われる描画材料について 平面表現Ⅰ: 引っかけ絵(スクラッチ①クレヨンについて)版の面白さを理解した下地づくり(講義+演習)	事前学習	テキスト p.136 を読む。クレヨンの準備。
		事後学習	クレヨンのらくがきから始まり、太い線を描く・塗りこむなど、様々な色の混色や表現を理解する。スクラッチの技法など、学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第3回	平面表現Ⅰ: 引っかけ絵(スクラッチ②様々な線描)様々なイメージで線を描く。きれいと感じる部分を伝え合う(演習)	事前学習	きれいと感じる部分を友達同士で伝え合うなどして活動を深め、下地を完成してくる。
		事後学習	引っかけ材料(くぎや割りばしなど)の太さの違いからくる線の効果を理解する。1枚の絵を完成させて、汚れないように作品を管理
第4回	平面表現Ⅱ: はじき絵(パチック) 絵の具を溶いてクレヨンの上からぬるとはじく見え方の変化を味わう	事前学習	テキスト p.25、p.127 を読む。ポスターカラーの準備
		事後学習	絵の具を溶く水加減によって、はじき絵の重

	( 講義 + 演習 )		ね方の違いを理解して、きれいと感じる部分を学生同士で話し合う。学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 5 回	平面表現Ⅲ：合わせ絵 ( デカルコマニーと糸引き版画 ) 偶発的に表れる色と形の不思議さに気づき、ことばや文字で表す。できた作品から見立て遊びに発展 ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト p.44、p.133 と配布資料を読む。
		事後学習	左右に同じ色と形が転写される楽しさを味わい、繰り返し作品を制作する。授業の記録、制作した作品を整理し、ポートフォリオにまとめてファイルしておく。
第 6 回	平面表現Ⅳ：マーブリングとにじみ絵 偶然性が多分にある不思議な模様から形を見つけたり、抜き文字を試みたりして、様々な表現を楽しむ。製作を通して、色の三属性、色相環及び色彩のイメージと心理効果について ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト p.25、p.36、p.136 を読み障子紙や和紙などを準備する。
		事後学習	水と油が反発しあう性質を利用したマーブリングの技法は、偶発的に表れる色と形が多分にある。乾燥後に切って室内の装飾にするなど保育の活用例を理解する。台紙に貼るなど絵で表す工夫を試みる。
第 7 回	平面表現Ⅴ：型押し絵 ( スタンピング①野菜の活用 ) 身近な材料を用いた表現として野菜や廃材を活用した技法を楽しむ。何回も版を押すという往来からくる意図的な幼児の表現活動を理解する ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト p.42、p.135 を読み廃材を準備する。
		事後学習	写すものを持ち寄り版の不思議さを発見する。身近にある廃材に目を向け、色を断面に塗ってスタンプすることで、想定外の発見を伝え合う。学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 8 回	平面表現Ⅴ：型押し絵 ( スタンピング②廃材の再利用 ) 野菜などの同じ材料でも、版の切り口 ( 角度 ) によって材料から異なる表現が生まれることに気づく。 ( 講義 + 演習 )	事前学習	配布資料とテキスト p.16、p.17 を読む。
		事後学習	版表現の活動を楽しみ規則性のあるデザインか絵画的な作品を完成させる。平面作品とポートフォリオをファイリングしてまとめる。
第 9 回	ICT を活用した造形表現 名画鑑賞教育について -Web 及び様々な視聴覚教材を使った対話型鑑賞教育-	事前学習	テキスト p.46、p.159 と配布資料を読む。
		事後学習	ICT を活用した対話型鑑賞教育についてグループで話し合いを進め、デジタルで共有してまとめる。
第 10 回	簡易ミニ絵本の制作とデジタル紙芝居 実習でも活用できる物語の制作と発表	事前学習	テキスト p.47 及び配布資料を読む。
		事後学習	絵本の自己評価と他己評価 USB などの記憶媒体に保存してまとめる。
第 11 回	立体表現について 粘土の特徴と種類 ( 講義 + 演習 ) こねる、ちぎる、たたくなどの手の活動と粘土の可塑性について体験的に理解する ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト p.29、p.39 を読む。油粘土の準備
		事後学習	触角の再発見と粘土の多様な表現を追求する力を育成することができたかポートフォリオにまとめる。
第 12 回	立体表現① 粘土から和紙へ ( ちぎり絵、張り子 ) 張り子技法を応用したお面づくり、型取りについて ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト p.47、p.130 を読む。障子紙の準備
		事後学習	障子紙をちぎって貼るといった活動を繰り返し、張り子のお面を作成させる。
第 13 回	立体表現② 紙の特性・接着の種類 ( のり、ボンドの活用 ) のり絵具で広がる紙の表現 ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト pp.46 ~ 52 と配布資料を読む。
		事後学習	紙を装飾してのり絵具でつける。乾燥後は色を塗るなど、演じて楽しめるお面づくりの完成を目指す。学習の過程を記録し、ポートフォリオにまとめる。
第 14 回	立体表現③ 型を使った和紙の活用 ( お面づくり ) 立体に表す活動の種類と表現 ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト p.156 と配布資料を読む。
		事後学習	粘土から和紙に切り替わるという型取りの仕組みを理解するとともに素材の違いで表現の幅が広がることに気づく。
第 15 回	立体表現④ 立体の彩色 ( 色と形 ) 遊びを楽しむ装飾としての環境構成 ( 講義 + 演習 )	事前学習	テキスト p.151、170 と配布資料を読む。
		事後学習	お遊戯会や発表会等でお面をつけて演じることを想定して、彩色を施す。お面をつくり演じて遊ぶことは、5 領域の「表現」の総合的な活動に結び付く。遊びの活用の仕方について話し合う。
期末試験 作品発表会			